

# 日本株は33年ぶりの高値水準を目指す展開も



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 海外勢による日本株への見直し進む

12日に日経平均株価が21年11月以来、約1年半ぶりの高値を付けました。東京証券取引所（東証）が上場企業に対し企業価値向上に向けた要請を行なったこと等を背景に、海外投資家は4月に日本株を2兆円超買い越すなど、海外勢が日本企業への見直し姿勢を強めていることが、日本株の上昇を後押ししています。

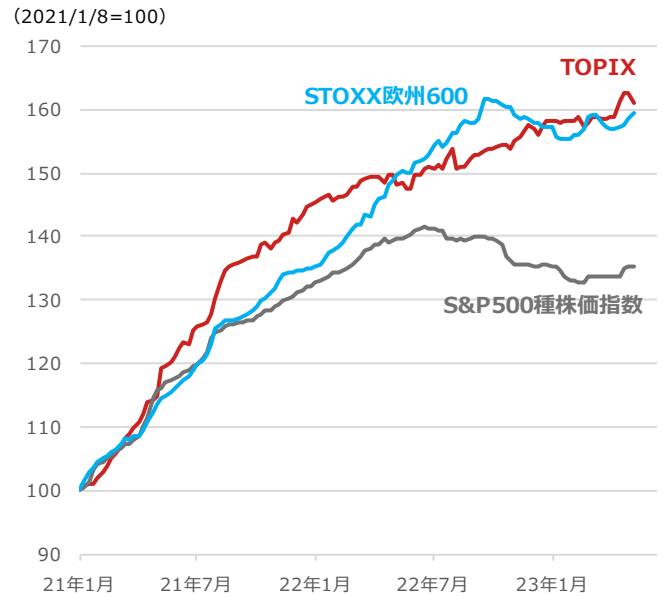
また上場企業の24年3月期見通し（会社予想）が2.3%増収、5.5%営業増益（5月12日現在）と、日本企業の業績環境が良好なことも支援材料です。12か月先予想EPSは、米欧株が伸び悩んでいる半面、日本株は拡大基調が続いており、こうした点も日本株のプラス材料です（右上図）。

## ポイント② TOPIXは33年ぶり高値水準トライへ

余剰資金の有効活用や収益力向上に向けた日本企業の改革が進まなかったこともあり、近年、海外投資家は日本株投資に消極的でした（右下図）。ただ、東証主導による日本企業の改革機運が高まってきたことで、日本株に対する海外勢の見直し姿勢が広がっていく可能性があります。

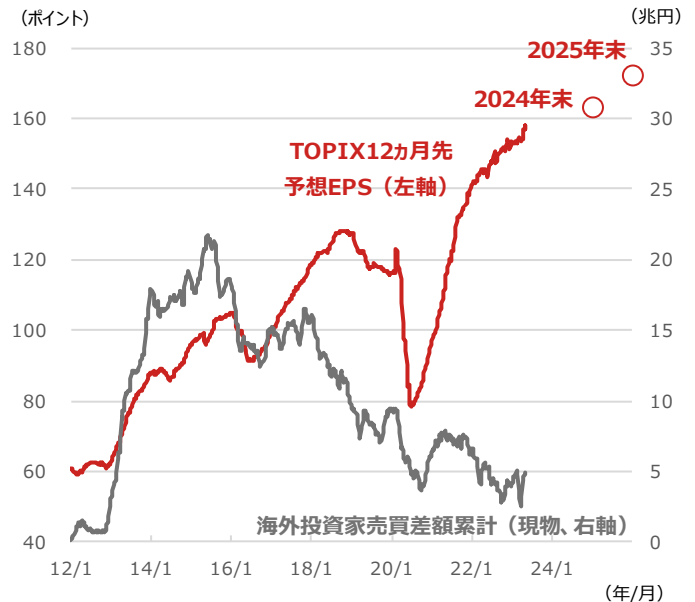
23年の日本企業の平均賃上げ率が31年ぶりの高水準となったほか、コロナ禍からの経済正常化の動きも期待されるなど、日本経済の先行きは明るいといえます。TOPIX（東証株価指数）の12か月先予想PER（株価収益率）は13.4倍（5月12日現在）と13年以降の平均値（14.7倍）を下回っており、業績面での割安感が目立つこともサポート材料です。日本企業の業績拡大が見込まれるなかで、TOPIXは21年高値（2,118ポイント）を上抜け33年ぶりの高値水準を目指す展開も想定されそうです。

### 日米欧株の12か月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2021年1月8日～2023年5月12日、週次  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### TOPIXの12か月先予想EPSと海外投資家売買差額累計



期間：（TOPIX12か月先予想EPS）2012年1月6日～2023年5月12日、週次  
（海外投資家売買差額累計）2012年1月第1週～2023年5月第1週、週次  
・○印は2024年末、2025年末時点のBloomberg予想（2023年5月12日時点）  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。